北神野菜情報　9月号

圃場巡回報告

北神営農振興会巡回日　　平成２２年９月２１日（火）
巡回地区　道場・大沢・長尾・八多・上淡河

◎今回の巡回でこれらの病害虫が確認されました。

品目	病害虫	発生数	薬剤名	希釈倍率 使用量	使用時期	本剤の使用回数(以内)
キャベツ	コナガ	少	アファーム乳剤	1,000～2,000 倍 100～300L/10a	7 日前まで	3 回以内
	アオムシ					
	ハイマダラノメイガ					
	コナガ					
ブロッコリー	アオムシ	中				
	コナガ					
	ヨトウムシ					
	ハイマダラノメイガ	少	エルサン乳剤		30 日前まで	2 回以内
だいこん	ハイマダラノメイガ	少				
	キスジノミハムシ	少				
はくさい	キスジノミハムシ	中			21 日前まで	3 回以内
えだまめ	ハスモンヨトウ	多	アファーム乳剤		3 日前まで	2回以内
みずな	ハモグリバエ類	中			7 日前まで	3回以内
	キスジノミハムシ	中	スタークル顆粒水溶剤	2,000 倍　100～300L/10a		2回以内
なす	うどんこ病	多	トリフミン水和剤	3,000～5,000 倍	前日まで	5回以内
	アザミウマ類	少	アファーム乳剤	2,000 倍　100～300L/10a		2回以内

※　薬剤の使用についてはラベル表示を確認のうえ、記載内容以外の使用はしないで下さい。

※　ハスモンヨトウとヨトウガは夏季が高温・少雨の年に多く発生する傾向にあります！

特徴：卵が数十～数百個の塊で生まれるため、**弱齢幼虫(体色は緑)**は葉裏で集団生活し、葉表の薄皮を残して食害します。老齢幼虫は体長４センチほどになり、葉をひどく食い荒らしてボロボロにします。**日中は地表に現れないこと**、中齢以降の幼虫は**殺虫剤**に対する感受性が低いことから、防除は難しいとされています。

対策：弱齢幼虫は畑の中の数枚の葉に集中するので、被害葉を切り取って処分する。
薬剤抵抗性がでやすいので、毎回系統の異なる薬剤をローテーションで用いる。
薬剤散布の際は葉裏まで丁寧に散布するようにする。

ハスモンヨトウ
一齢幼虫

ハスモンヨトウ
老齢虫

●秋野菜の今後の管理について

だいこん（露地栽培）

本葉１～2 枚展葉時と本葉５～６枚展葉時が間引きを行う適期です。１回目と２回目の間引き後に追肥を行います。２回目の追肥のときに株元へ土寄せをおこなってください。

キャベツ（露地栽培）

キャベツは初期の外葉形成が結球の大きさを決定するので、定植後の２～３週間後に追肥を行ってください。この時期は生育が盛んな時期となりますので、除草を兼ねた中耕と追肥、そして潅水によって肥効を高めてください。(2 回目の追肥のめやすは本葉 15～20 枚くらいにおこなってください。)

ブロッコリー（露地栽培）

初期の外葉形成から花蕾形成の時期まで肥効を切らさずに生育させることが、花蕾の品質を向上させます。定植後 20 日頃と頂花蕾が見え始める頃に追肥を行ってください。

レタス（露地栽培）

定植後 25 日後ぐらいに追肥を行い(畝の真ん中に施用)、外葉の確保を図ります。外葉が小さいと充分に結球しないので注意が必要です。定植から結球はじめまでの乾燥に注意し、適宜潅水を行ってください。

はくさい（露地栽培）

定植後２週間後と結球前に追肥を行います。追肥後、中耕、除草して土寄せを行います。

※鱗翅目害虫が白菜、キャベツでは結球内に、ブロッコリーでは花蕾内に入り込まないように、結球初期や花蕾発達期に防除を行いましょう。

●気象情報　　９月１７日　　大阪管区気象台発表

(週間予報)　９月 23 日～９月 29 日
向こう１週間の近畿地方は、気圧の谷や前線の影響で曇りや雨の日が多いでしょう。
期間の中ごろは高気圧に覆われて晴れる日がある見込みです。
最高気温は、平年並か平年より高いですが、期間のはじめは平年より低い日があるでしょう。最低気温は、平年並か平年より高く、期間の初めは平年よりかなり高い日がありますが、期間の中頃は平年より低い所がある見込みです。降水量は平年並でしょう。
（１ヶ月予報）９月 18 日～10 月１７日の見通し
＜特に注意を要する事項＞
向こう１ヶ月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量などの確率は以下のとおりです。
向こう１ヶ月の平均気温は高い確率が 50%です。
週別の気温は、１週目は高い確率が 80%です。２週目は、低い確率が 50%です。

＊お問合せ先＊　　ＪＡ兵庫六甲　　神戸北営農総合センター
ＴＥＬ：０７８－９８１－５５４０　　ＦＡＸ：０７８－９８１－５８１７